

# 全国学力・学習状況調査の概要

平成25年度全国学力・学習状況調査は、平成21年度以来4年ぶりに全小中学校を対象に実施されたものです。（平成22～24年度は、全小中学校を対象に、大阪府学力・学習状況調査を実施しました。）

藤井寺市教育委員会では、本調査について次のように考え、取り組んでまいります。

本調査は、競争や順位的位置付けを目的とするものではなく、またその調査結果は、あくまでも学校における教育活動の一側面を示すものであり、本調査により測定できるのは、特定の学力の一部であると考えます。しかし調査結果については、すべての子どもたちの学力や学習状況、また生活習慣を含めた学習状況と学力との関連を分析し、教育及び教育施策の成果と課題を検証した上で、その改善を図ってまいります。さらに学校現場においては、児童・生徒への指導や学習状況の改善等に役立て、藤井寺市における教育のより一層の充実・発展をめざしてまいります。

結果の公表については、本市の教育課題や今後の教育の取組みに生かすため、保護者・市民のかたに、教育についての理解と協力・支援を得ることが何よりも大切であると考えます。

## （1） 調査の実施概要

① 実施日 平成25年4月24日（水）

② 実施学年及び対象者数

対象	藤井寺市		大阪府		全 国	
	学校数	対象者数	学校数	対象者数	学校数	対象者数
小学校6年生	7校	622人	1,013校	77,527人	20,634校	約1,150,000人
中学校3年生	3校	593人	470校	72,922人	10,328校	約1,137,000人

③ 実施内容

【小学校】 国語A（知識） 国語B（活用）  
算数A（知識） 算数B（活用）  
質問紙調査（児童質問紙）

【中学校】 国語A（知識） 国語B（活用）  
数学A（知識） 数学B（活用）  
質問紙調査（生徒質問紙）

## (2) 調査結果

### 教科・区分別平均正答率

教科 区分	小学校(6年生)				中学校(3年生)			
	国語		算数		国語		数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
藤井寺市	58.9	45.8	76.8	56.2	72.3	61.5	60.3	37.2
大阪府	61.2	47.9	77.1	57.3	73.3	63.0	61.7	38.8
全国	62.7	49.4	77.2	58.4	76.4	67.4	63.7	41.5

学校別の平均正答率などについては、序列化や過度な競争を生じるおそれがあるため、今後も公表いたしません。

#### 小学校について

※百分率は全て正答率を表す

○国語A(「知識」に関する問題)は58.9%で、国語B(「活用」に関する問題)は45.8%でした。「ことわざの意味理解」(77%)や、「相手の立場や状況を感じ取って聞くこと」(78.9%)ができています。しかし、「漢字の読み書き」(平均67.8%)は前回と比べて低くなっていることや、「接続語の理解と記述」(16.9%)、「資料の読み取り」(35.2%)などにも課題が見られました。また「自分の考えや理由を書く」では約30%の無解答率があり、積極的に解答を書こうと努力する意欲の向上の面に課題が見られます。

○算数A(「知識」に関する問題)は、76.8%でした。基礎的な計算は概ね80%以上で、「円柱の展開図の理解」(92.5%)は高い正答率です。しかし、「小数の計算」(65.5%)が前回と比べて低くなっていることや、「単位量あたりの大きさ」(49.7%)、「面積の単位についての理解」(47.7%)等の課題もうかがえました。算数B(「活用」に関する問題)は56.2%でした。「数の変化の規則性を読み取ること」(29.6%)、「割合の意味を活用し、数量関係を考えること」(39.7%)に課題が見られました。

#### 中学校について

○国語A(「知識」に関する問題)は、72.3%で、国語B(「活用」に関する問題)は61.5%となっています。昨年度の大阪府学力・学習状況調査に比べ、正答率がAで5.9%、Bで15.1%上がり、無解答率もAで1.7%、Bで8.1%下がり改善がみられます。Aの「基本的な読み取り問題」で約80%に対して、同じくBの「読み取り問題」では約55%と数値が下がっており、学習した知識の活用において課題が見られます。

○数学A(「知識」に関する問題)は、60.3%で、数学B(「活用」に関する問題)は、37.2%となっています。「分数の計算」(82.0%)、「正・負の数の計算」(90.0%)、「図形の拡大図を書く」(90.7%)では、基本的な理解ができています。しかし、「 $y$ が $x$ の関数である事象を選ぶ」(13.3%)や「相対度数を求める」(19.3%)のように、数学の基礎用語の理解に課題が見られます。また「資料や式等を読み取って数学的に説明する」では、20%弱と課題が見られます。